

研究協力のお願ひ

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

進行がん患者における NEWS (National Early Warning Score) の予後予測の有用性による検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2023年8月から2023年12月に昭和大学横浜市北部病院緩和ケア病棟に入院し、亡くなった患者さん

2. 研究目的・方法

日本人の多くは患者さんの臨終に立ち会うことが大切だと考えています。臨終直前の兆候として、意識の低下、末梢循環不全(手足のチアノーゼ、脈が触れなくなる)、呼吸状態の変化、尿量の減少などが起こりますが、全ての患者さんに必ず現れる兆候ではありません。

24時間以内の急変リスクを判断する方法として、毎日測定されている呼吸数、酸素飽和度、酸素療法の有無、体温、収縮期血圧、心拍数ならびに意識レベルの7項目から構成される NEWS(National Early Warning Score)という指標が一般的に用いられます。この指標は患者さんの状態の変化の早期発見に有効であるため、緩和ケア病棟においても状態変化の早期発見に有効であると考え、昭和大学横浜市北部病院緩和ケア病棟に入院された患者さんの診療録から、NEWSの点数を測定し臨終の時期を予測できるか調査します。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2024年3月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの診療録から年齢、性別、診断病名、現病歴(生存期間)およびバイタルサインとして呼吸数、酸素飽和度、酸素療法の有無、体温、収縮期血圧、心拍数、意識状態を調査します。

5. 外部への試料・情報の提供

該当しません。

6 . 研究組織**研究責任者** 昭和大学横浜市北部病院 西木戸修**7 . お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属： 昭和大学横浜市北部病院 緩和医療科 氏名：西木戸修

住所： 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-949-7000（緩和ケアセンター）